

## 弥生時代の実年代

| 西暦   | 中国   | 歴博の分析 | 従来の年代 |
|------|------|-------|-------|
| 1500 |      | 縄文    | 後期    |
|      | 商(殷) | 後期    | 後期    |
|      | 1027 | 晩期    |       |
| 1000 | 西周   | 早期    | 晩期    |
|      | 770  |       |       |
|      | 春秋   | 前期    | 早期    |
| 500  | 403  |       | 前期    |
|      | 戦国   | 中期    | 中期    |
|      | 221  |       |       |
|      | 202  |       |       |
| 紀元前  | 前漢   |       |       |
|      | 8    |       |       |
| 紀元後  |      |       |       |
| 250  | 25   | 後期    | 後期    |
|      | 後漢   |       |       |
|      |      | 古墳    | 古墳    |

弥生時代に日本に初めてもたらされた青銅器は、戦国燕の將軍、樂毅が奪った宝物の再利用品では。韓国国立慶尚大学招聘教授の新井宏さん(金属工学)が学術誌「考古学雑誌」(日本考古学会編)で、弥生期の青銅器についての研究論文を発表した。含有されている鉛の分析で、弥生中期の青銅器の成分が、時代を400～500年もさかのぼった商(殷)や西周の青銅器と共通点があることが判明。日中の青銅器の伝播にミステリアスな「空白期」が生じること。新井氏は「樂毅の略奪が介在した」と推論する。古代の鉛に注目した新たなアプローチは、弥生論争にも一石を投じるか。

(牛田久美)

# 日本に伝播 青銅器

## 商・西周と共通点

特殊な鉛含有

新井氏は、青銅器材料に含まれる微量の鉛を測る鉛同位体比法により、日中の青銅器計約3000個のデータを解析。弥生関連の1052個を鉛同位体の比率の違いに注目して分類、共通点を探った。

その結果、弥生前期末から中期初めのものとされる青銅器は、中国最古の王朝とされる商(殷、前17～11世紀)や西周(前12～8世紀)の時代に多く見られる青銅器と、鉛同位体比が一致す

鉛同位体比法 融点が低く、製錬しやすい鉛は古くから世界各地で用いられてきた。質量により4種の同位体があり、その比率が鉱山によって微妙に異なるため産地の推定が可能となる。青銅器の場合は複数の金属が混合使用されるため判定が難しいとされてきたが近年、形状が異なる青銅器の同時生産の可能性や、似た青銅器の生産時期の違いなどの判定に威力を発揮、測定事例が増えている。

# 空白期の謎 弥生年代論争に一石？

ることが判明した。鉛の種類としては極めて特殊なものが含まれていたという。

注目されるのは、特殊な成分の鉛を含む青銅器が日本に流入するまでに「空白期」が生じることだ。青銅器や鉄器は朝鮮半島経由で伝わったと考えられるが、商の時代といふのは、日本では土器文化の縄文時代にあたる。新井氏は「樂毅介在説」を前提に「旧来の中国では、春秋、戦国、秦、漢の時代(前8～後3世紀)を通じてこの特殊な鉛は使われなくなった。商の鉛は長い空白期を経て、不思議なことに日本に突然現れる。

新井氏は、この空白について「前284年、中国北東部にある燕の將軍、樂毅が斉を攻め、都から宝物を奪ったと漢代の歴史書『史記』に記述がある。樂毅が奪った青銅器が再利用され、日本へ伝わった」と推測す

みる。弥生時代については、国立歴史民俗博物館(歴博)が4年前、放射性炭素年代測定による分析の結果、弥生期の幕開けは紀元前10世紀へさかのぼる」と発表して話題を集めた。従来の定説では、日本へ青銅器が初めて流入したのは、前250～200年。遡上説をとる歴博によると前370年ごろ。新井氏は「樂毅介在説」を前提に「旧来の中国では、春秋、戦国、秦、漢の時代(前8～後3世紀)を通じてこの特殊な鉛は使われなくなった。商の鉛は長い空白期を経て、不思議なことに日本に突然現れる。新井氏は「樂毅が略奪した、青銅器を再利用した」という話は憶測と仮定でしかなく、論理に飛躍がある。ただ、鉛に着目して年代の議論を試みることは面白い」としている。

古代の鉛がもたらしたミステリーをどう解釈するか。今後の議論が楽しみです。